



この  
河野としのり

レポート



河野の  
としのり  
県議

2023年11月 美浜区に開院の  
総合救急災害医療センター  
宮田昭宏病院長  
精神保健福祉センター  
林 偉明センター長  
と対談!!



**宮田病院長**  
一つには、前の救急医療センターはかなり特殊な病院で、三次救急という一番重症度の高い患者さんを専門に受け入れる救命救急センターでした。救急隊が非常に重症な患者さんと判断した場合や、他の病院で対応が難しく緊急で処置が必要という依頼があった場合に夜中でも対応している病院でした。一方、隣の海浜病院は地域に根差して、地域を守っている病院ですので役割が明確に違いました。ですので、地域の美浜区の方は基本的には海浜病院、そして、私たちの病院は、県全体を対象に、他の病院では対応が難しい症例や、人手が足りない部分をカバーしてきました。

**河野としのり県議**  
総合救急災害医療センターは、磯辺の海浜病院の隣にあった県の救急医療センターと、又以前此処に在った精神科医療センターとが一緒になったという風に地域の人は思っていますが、この県の総合救急災害医療センターとはどのようなものかお教え頂きたい。

総合救急災害医療センターとは

どのようなものが



宮田病院長

河野としのり県議



# 脳卒中とか、心筋梗塞とかは、症状に早期に気づいて、救急車を

## 河野としのり県議

美浜区は既に高齢者の方が46,000人に達し、早急な対処と治療が必要な脳卒中、心筋梗塞にはどうするか常に考えて行かねばなりません。脳卒中とか、心筋梗塞とかいう症状が出ますと、症状に早期に気づいて、救急車を呼び、一刻も速く病院を受診することだと思えます。そうするとこ

てもらえるというのが一つの対応です。その薬だけでは溶けない血栓というものがあります。そうすると、機械的にカテーテルを入れて、カテーテルで血栓を引っ張り出す、吸い出したりしなくちゃいけない、次の段階となります。その次の段階は、特定の16の病院があります。PSCコア（※注5）と言つのですけれど、そういう施設では24



ます。近隣では市原とか習志野の病院からも、この病院に集まってきているのが現状ですね。そういう体制が整っています。脳卒中・循環器病対策基本法（※注6）というのができまして最初の初動体制というのが非常に進みました。

河野としのり県議  
そうすると、この地域の千葉市美浜区で、まずそういう症状が起こりますと、救急隊員が来て判断して、海浜病院へ行くか、チームで高度に対応する三次病院のこちらで行くか、二つの良い病院があるから、その辺の判断は、救急隊員の方で分かっているという事ですね。

**カテーテル治療もこの病院が365日、24時間、いつでも対応することができま**  
**すので、近隣の美浜区の人のメリットは**  
**大きい。**

く大雑把に言って直ぐに救急隊を呼びます。そして駆け付けて下さった救急隊員の方がその場で海浜病院とか普通の総合救急病院で良いか、あるいは即高度なこの三次病院等に行かなくてはいけないとか、判断をされるのです。特に短時間で治療せねば後遺症が残るとか、早ければ早いほど回復も早いとか、当然そう言ったことを考え、救急病院は救急隊員と連絡を取り合っ互いに判断していくという感じなんです。

## 宮田病院長

**仰る通り、本当に1分1秒なんですよね。血液が脳に行っていない時間がありますから、本当に1分でも早く血をもう一回流せば救われるんです。**

そのためにいろいろシステムができていて、例えば脳卒中に関しては、地域の連携が非常に強く整えられております。一次脳卒中センターとしてtPA（※注3）と言つ血管の中にできた血栓（※注4）を溶かす薬を24時間使用できる病院が千葉県の中に49あります。そういうところで先ず診



時間でカテーテルの対応が可能です。49の施設と16の施設が強い連携を組んでいるような形になっていますので、例えば救急隊の方が、何か脳卒中を疑った場合は、基本的にはその49のPSC施設を探して、場合によっては、最初からその16のPSCコア施設のところを選んで、治療に当たる体制が整えられています。海浜病院とは脳外科とか常に情報交換していますので、あちらの病院に搬送された患者さんも、状況によっては直ぐにこちらに送ってくださいます。

## 宮田病院長

そうですね。救急隊の方にも情報は出していますし、救急隊員がいくつかの簡単なテストをして、例えば手を挙げるとか、簡単な質問にどう答えるか、顔が歪んでいるかとか、言葉が出るか、そういういくつかの評価基準があります。その評価基準で、陽性所見と言つて、脳卒中を疑う所見があった場合には、対応可能な施設に送るといのが救急隊の中では決まっています。ただ病院のキャパシティは限られていますので、そういう施

（※注3） tPAという薬は、アルテプラゼ（tPA）という脳梗塞治療薬で、閉塞した血栓を溶解させ、途絶した脳血流を再開させることが可能で、発症4.5時間以内はこの薬剤を静脈内投与できれば、脳梗塞が劇的に良くなる可能性があります。

（※注4） 血栓とは、何らかの原因によって血液が固まって血栓になり、それによって血管が詰まってしまう病気の総称です。血栓によって血管が詰まると血流が阻害されてしまい、各部位や臓器に栄養が行き届かなくなり、その結果、機能障害が発生したり、各組織の壊死を引き起こされたりします。

（※注5） 二次脳卒中センター（PSC）コア施設とは、血栓回収療法に対応できない医療機関からの患者さまも常時受け入れ、血栓回収療法を行う資格を持つ医師が3名以上常勤しており、同療法を24時間365日体制で行っている等の要件を満たす医療機関です。

（※注6） 脳卒中・循環器病対策基本法  
救急搬送と受け入れ体制の整備、救急救命士・救急隊員の研修、医療機関の整備、患者の生活の質の維持・向上、連携協力体制の整備、人材育成、情報収集、提供体制の整備、患者に対する相談支援の推進、研究の促進が挙げられている。

設が必ずしもいつも受け入れられる状態ではなくて、特に夜間に関しても、時間によってはカテーテルの治療が整っているという施設は限られています。そういう時はこの病院が365日、24時間、いつでも対応することができますので、近隣の美浜区の人についてもメリットは大きいかと思つています。一番最初にお話したように本当に分単位で症状は変わるので、常に体制を作っておかなければいけないんです。なかなか一般病院でそこまで体制を作ると言うのは難しいので、そういう場合はこの病院は絶対的メリットがあるかなと思つています。

## 河野としのり県議

そうすると美浜区民にとってはすぐ近くにそういう1分を争う緊急な治療に高度なチームで対応して下さるこの三次救急医療センターがすぐ近くにあるという事は非常に有難く心強い訳ですね。

## 宮田病院長

そうですね、美浜区に限ったことではないですけど、依頼があれば私達で対応できるといことなんです。美浜区のように近いところでは、早いに越したことはありません。早いで、短時間のうちに対応が可能と言えます。



河野としのりプロフィール

昭和48年 早稲田大学理工学部卒  
50年 早稲田大学大学院修士課程修了  
同年 東洋エンジニアリング株式会社入社  
平成7年 千葉県議会議員初当選  
16年 千葉県議会議員再選  
千葉県監査委員

17年 防災対策委員  
20年 民主党県連幹事長  
令和5年 千葉県議会議員8期当選  
現在立憲民主党千葉県連合会副代表

●河野としのり事務所 ●〒261-0013  
千葉市美浜区打瀬1-2-2幕張パークタワー305  
TEL. 043-211-0024

